

『表現学』第八号 令和二(二〇二〇)年二月四日 抜刷
大正大学表現学部表現文化学科

『トニー滝谷』の本文改訂(七)

―シヨート・ロング両ヴァージョンの登場女性に関する描写(2)―

森 晴彦

『トニー滝谷』の本文改訂(七)

—ショート・ロング両ヴァージョンの登場女性に関する描写(2)—

森 晴彦

はじめに

村上春樹『トニー滝谷』の本文異同についての考察を続け(1)、前稿では、ショート・ヴァージョン(『文藝春秋』b・1、『文藝春秋短篇小説館』b・2)と、ロング・ヴァージョンc・1『村上春樹全作品1979~1989』(平三、講談社。以下『全作品』⑧)と略称)そこから五二箇所七九個の削除改訂を施すロング・ヴァージョンc・2・3(単行本『レキシントンの幽霊』平成八年、文庫本『レキシントンの幽霊』平成二年)における母・彼女&妻(結婚まで)の描写について考察したが、本稿では、続けて、結婚後の妻・応募女性について些かの指摘しておこうとするものである。旧稿でも示したが、本稿でも『トニー滝谷』の本文の分類について以下に簡便に示しておく。

(a) ロング・ヴァージョン
未発表

(b) ショート・ヴァージョン
・『文藝春秋』六八巻七号、平成二年六月(b・1)
・『文藝春秋短篇小説館』平成三年九月(b・2)
(c) ロング・ヴァージョン

・『村上春樹全作品1979~1989』平成二年七月(c・1)
・単行本『レキシントンの幽霊』平成八年二月(c・2)
・文庫本『レキシントンの幽霊』平成二年一月(c・3)

本稿では、ショート・ヴァージョンと、ロング・ヴァージョンc・1(『全作品』⑧)、ロング・ヴァージョンc・2・3(単行本・文庫本『レキシントンの幽霊』)の本文批評を比較し、登場する女性に関する描写について増補訂や削除を中心とした本文異同を指摘・考察し、創作過程論上、特記せねばならないことなどを指摘していくとするものである。

本文への記号は、概ね以下の方針で付している。

(b・1・2) ショート・ヴァージョンにあるもロング・ヴァージョンc・1(『全作品』⑧)で削除された箇所を□で囲み示した。両ヴァージョン間で異同がある箇所には傍線を付した。

『全作品』⑧(c・1)にあるが『レキシントンの幽霊』文庫本(c・3)で削除された箇所は□で囲んだ。ヴァージョン間で異同がある箇所には傍線を付した。文庫本で新たに挿入された文言に二重傍線を付した。また、改訂の場合、囲みではなく両方に二重傍線を付した。

結婚後の妻の改訂

トニー滝谷が彼女と結婚した後の、彼女と妻の描かれ方についてここでは異同を見ていきたい。

(b・1・2) ショート・ヴァージョン

二人の生活には問題らしい問題はなかった。彼の仕事は相変わらず順調だったし、彼女も新しい生活に積極的に馴染んだ。二人でよく散歩をし、映画を見にいったり、旅行をしたりした。彼女はその年齢にしてはかなり有能な主婦であり、何事にも節

度というものをわきまえていた。育ちが良かったので、**がつがつしたところもなかった。**

(c-1) ロング・ヴァージョン (全作品⑧)

二人の結婚生活に影を落とすようなものは何ひとつ存在しなかった。彼の仕事は相変わらず順調だったし、ふたりは喧嘩ひとつしなかった。よく散歩をし、映画を見にいったり、旅行をしたりした。彼女はその年齢にしてはかなり有能な主婦であり、何事にも節度というものをわきまえていた。てきぱきと家事をこなし、夫には余計な心配をかけなかった。

(c-2・3) ロング・ヴァージョン (単行本・文庫本)

二人の結婚生活に影を落とすようなものは何ひとつ存在しなかった。彼の仕事はあ**いかわらず順調**だったし、ふたりは喧嘩ひとつしなかった。よく散歩をし、映画を見にいったり、旅行をしたりした。彼女はその年齢にしてはかなり有能な主婦であり、何事にも節度というものをわきまえていた。てきぱきと家事をこなし、夫には余計な心配をかけなかった。

シヨート・ヴァージョンの「二人でよく散歩」の「二人」をカットするのは、ロング・ヴァージョンではその直前に「ふたりは喧嘩ひとつしなかった」を挿入したためである。

シヨート・ヴァージョンの「問題らしい問題はなかった」を、ロング・ヴァージョンではより強化して「何ひとつ存在しなかった」としているが、「影を落とすようなものは」とフラグ的に増補されているように、次の唯一の問題点を強調するための完璧な妻であることの描写と考えられる。ロング・ヴァージョンで挿入される「てきぱきと家事をこなし、夫には余計な心配をかけなかった」もそのための効果も含んだ描写と考えられようか。

ただ、シヨート・ヴァージョンでは「節度をわきまえている」のも「育ちが良かった」ため、そのため「がつがつしたところもなかった」と筆が走るが、ここはシヨート・ヴァージョンのみの表現で、ロング・ヴァージョンでは諷めてカットしている。削除したとはいえ、彼女の設定に「節度をわきまえる。育ちが良い。ゆえにがつがつしたところもない」が最初にあったことはまちがいない。

(b-1・2) シヨート・ヴァージョン

しかしただひとつだけトニー滝谷の気になることがあった。それは彼女があまりにも服を買いすぎる**こと**だった。洋服を目の前にすると、彼女は**目が外れたみたい**に抑制がきかなくなってしまう。一瞬にして顔つきが変わり、**声の高さ**まで変わってしまった。最初のうちは体の具合が急にわるくなったのかと思つたくらいだった。結婚前からそういう傾向が**いくぶん目**についてはいたのだが、目立ってひどくなつたのは新婚旅行でヨーロッパに行ったときからだ**った**。

(c-1) ロング・ヴァージョン (全作品⑧)

しかしただひとつだけトニー滝谷の気になることがあった。それは彼女があまりにも**多く服を買いすぎる**ことだった。洋服を目の前にすると、彼女は**まったくと**言つて**いくぶん**抑制がきかなくなってしまった。一瞬にして顔つきが変わり、声まで変わってしまった。最初のうちは体の具合が急にわるくなったのかと思つたくらいだった。結婚前からそういう傾向が**目**についてはいたのだが、**とくに**ひどくなつたのは新婚旅行でヨーロッパに行ったときからだ**った**。

(c-2・3) ロング・ヴァージョン (単行本・文庫本)

しかしただひとつだけトニー滝谷の気になることがあった。それは妻があまりにも**多く服を買いすぎる**ことだった。洋服を目の前にすると、彼女は**まったくと**言つて**いくぶん**抑制がきかなくなってしまった。一瞬にして顔つきが変わり、声まで変わってしまった。最初のうちは体の具合が急にわるくなったのかと思つたくらいだった。結婚前からそういう傾向が**目**についてはいたのだが、**とくに**ひどくなつたのは新婚旅行でヨーロッパに行ったときからだ**った**。

一番の改訂は「たがが外れたみたいに」を「まったくと」言つていく**くらい**に変えたところであろう。「**籠が外れる**」よりは解りやすい表現に変えたわけだ。シヨート・ヴァージョンでは「声の高さまで変わつて」とあるがロング・ヴァージョンでは「声まで変わつて」としている。声の高低から得られる印象を緩和している。

なお、シヨート・ヴァージョンでもロング・ヴァージョン**c-1** (全作品⑧) でも「彼女」としていたものをロング・ヴァージョン**c-2・3** (単行本・文庫本) では「妻」に変更している。シヨート・ヴァージョンの「目立ってひどくなつた」はロング・ヴァ

アージョンでは「とくにひどくなった」に変更している。

(b1・2) ショート・ヴァージョン

彼はその旅行に関しては洋服屋の記憶しかない。ヴァレンティノ、ミッソーニ、サン・ローラン、シヤネル、ジヴァンシー、フェラガモ、アルマーニ……、彼女はただ魅せられたように洋服を買いまくり、僕は後ろをついてまわってその勘定を払った。クレジット・カードの刻印が擦り減ってしまふんじゃないかと心配になつたくらいだった。

(c1・2・3) ロング・ヴァージョン (全作品⑧・単行本・文庫本)

彼はその旅行に関しては洋服屋の記憶しかない。ヴァレンティノ、ミッソーニ、サン・ローラン、ジヴァンシー、フェラガモ、アルマーニ、セルツァー、ジャン・フランコ・フェレ……、彼女はただ魅せられたような目つきでかたづけしから洋服を買いまくり、僕は後ろをついてまわってその勘定を払った。クレジット・カードの刻印が擦り減ってしまふんじゃないかと心配になつたくらいだった。

ここはかつて拙論で論じたところなので、簡単に結論を記しておく。ロング・ヴァージョンで「魅せられたような目つきでかたづけしから」を挿入するのは、極度の性癖、病的であることを強調するためである。この問題は、ショート・ヴァージョンにあった高級婦人服「シヤネル」の削除である。増補したロング・ヴァージョンはセルツァーやジャン・フランコ・フェレを追加しているのに、シヤネルだけを削除するのである。「……」と二点リーダー「字分末尾に残す」とは、これ以外のブランドも猟渉したことを示すわけなので、シヤネルを削らずセルツァー等2ブランドを追加するのが筋である。「シヤネル」のみを削除したかが明白となろう。

拙論でも記したが、これは妻となつた「彼女」の造形にシヤネルが合わないためである。ロング・ヴァージョンに次のようにあるのが参考になる。

その娘が気持ちよきそくに服を着こなしている様子に、なんだかすっきり感心してしまった。感動したといつてもいいくらいだ。ただ単に上手い着こなをする女ならけつこつた。これ見よがしに着飾っている女はそれ以上に沢山いた。でも彼女はそんな女たちとはぜんぜん違つていた。彼女はまるで遠い世界へと飛び立つ鳥が特別な風を身にまとつたように、とても自然にとて優美に服をまとつて

いた。

ショート・ヴァージョンでも

それから服の着こなしがしても上手かった。彼女はとても楽しそうに、とても誇らしげに服を身にまとつていた。服の方も彼女に着られることで生命感を帯びたようにさえ見えた。

とあることでも判るように、シヤネルスーツで有名な超高級服は彼女のイメージにはそぐわないことがわかる。「これ見よがしの着飾る」「そんな女たち」に属する要素が強くなつてしまつたところの定型化される金と黒のシヤネルスーツでは彼女夫妻の造形にそぐわないという判断があつての削除と考えられる。

(b1・2) ショート・ヴァージョン

日本に戻ってきてても、その熱は収まらなかつた。彼女は毎日のように洋服を買いつづけた。服の数は急速に増えつづけた。そのためには大きな洋服ダンスを幾つか注文しなくてはならなかつた。靴を収納するための戸棚も作らせた。それでも足らずに、とうとう部屋をまるごとひとつ衣裳室に改造しなくてはならなかつた。

(c1) ロング・ヴァージョン (全作品⑧)

日本に戻ってきてても、その熱は収まらなかつた。彼女は毎日のように洋服を買いつづけた。服の数は急速に増えつづけた。おかげで彼は大きな洋服ダンスを幾つか注文しなくてはならなかつた。靴を収納するための戸棚も特別に作らせた。それでも足らずに、とうとう部屋をまるごとひとつ衣裳室に改造しなくてはならなかつた。

(c2・3) ロング・ヴァージョン (単行本・文庫本)

日本に戻ってきてても、熱は収まらなかつた。来る日も来る日も洋服を買いつづけた。服の数は急速に増えていった。大きな洋服ダンスを幾つか注文しなくてはならなかつた。靴を収納するための戸棚も特別に作らせた。それでも足らずに、部屋をまるごとひとつ衣裳室に改造しなくてはならなかつた。

示す内容は同じなのだが、微妙な言い回しを改訂している。たとえば「毎日のように」はショート・ヴァージョンからロング・ヴァージョンc1 (全作品⑧) に引き継がれた表現であるが、ロング・ヴァージョンc2・3 (単行本・文庫本) では「来る日も来る日も」と改訂するのである。また、囲みのように指示語や主語もロング・ヴ

アージョン c-2・3 (単行本・文庫本) では削除する。

(b-1・2) ショート・ヴァージョン

大きな家だったから部屋はどうせ余っていたし、金に不自由しているわけでもなかった。それに妻は^はとても着こなしが上手かった。だからトニー滝谷も最初のうちはそれに^はついて文句を言わなかった。世の中に完全な人間なんていないのだ。

(c-1) ロング・ヴァージョン (全作品⑧)

大きな家だったし、部屋はどうせ余っていた。金に不自由しているわけでもなかった。それに妻は着こなしが上手かった。新しい服さえあれば彼女は幸せそうだった。だからトニー滝谷もそれに^はついて文句は言うまいと思つた。まあいいじゃないかと彼は思つた。この世界に完全な人間なんていないのだ。

(c-2・3) ロング・ヴァージョン (単行本・文庫本)

大きな家だったし、部屋はどうせ余っていた。金に不自由しているわけでもなかった。それに妻は着こなしが上手かった。新しい服さえあれば彼女は幸せそうだった。だから文句は言うまいと思つた。まあいいじゃないか、この世界に完全な人間なんていないのだ。

ここも微細な表現の改訂だが、ショート・ヴァージョンでは「着こなしが上手い+最初のうちは文句を言わなかった」をロング・ヴァージョンでは「着こなしが上手い+新しい服で幸せそう+文句を言うまい」に改訂している。c-2・3 (単行本・文庫本) で「まあいいじゃないか、」が挿入されるが、ここに至り、「この世界に完全な人間なんていないのだ」と対応した形になっていてよいのではないだろうか。

(b-1・2) ショート・ヴァージョン

しかし服の量がひとつの部屋に収まりきらないくらいになると、彼も^はだんだん不安になってきた。一度妻のいないときに、その服の数を勘定してみた。彼の計算によれば、毎日二回着替えをしても、全部の服を着こなすのに二年近くかかった。これはいくら何でも多すぎると彼は思つた。どうしてこんなに次から次へと服を買わなくてはならないのだろう。彼には理解できなかった。買うのに忙しくて、買った服を着る暇もないのだ。これは一種の精神の病と言つてもいいのではないかと彼は思

つた。もしそうだとしたら、どこかで彼女に歯止めをかけなくてはならない。

(c-1) ロング・ヴァージョン (全作品⑧)

しかし妻の服の量がひとつの部屋に収まりきらないくらいになると、彼もいささか不安になってきた。一度彼は妻のいないときに、その服の数を勘定してみた。彼の計算によれば、毎日二回着替えをしても、全部の服を着こなすのに二年近くかかった。それはいくら何でも数として多すぎると彼は思つた。どうしてこんなに次から次へと服を買わなくてはならないのか、彼には理解できなかった。服を買うのに忙しくて、着る暇もないくらいなのだ。これは精神の病といつてもいいのではないだろうかと思つた。もしそうだとしたら、どこかで彼女に歯止めをかけなくてはならない。

(c-2・3) ロング・ヴァージョン (単行本・文庫本)

しかし妻の服の量がひとつの部屋に収まりきらないようになってくると、さすがに不安になってきた。一度妻のいないときに、その服の数を勘定してみた。彼の計算によれば、毎日二回着替えをしても、全部の服を着こなすのに二年近くかかった。それはいくら何でも数として多すぎる。どこかで歯止めをかけなくてはならない。

ロング・ヴァージョン c-2・3 (単行本・文庫本) の形がシンプルで、結局この形に落ち着いたわけだが、書こうとした要素は、ショート・ヴァージョンを増補したロング・ヴァージョン c-1 (全作品⑧) にもっともよく示されていて、この形がこの箇所^の創作過程上、設定した要素であることは明白だ。ただ、表現上、不適当なところを削除し整理した結果が c-2・3 なわけである。

(b-1・2) ショート・ヴァージョン

ある日、夕食の終わったあとで、僕は思い切つて妻に対して持ち出してみた。少し服を買うのを控えたらどうだろう、と。僕は何かお金のことだけを問題にしているんじゃない。必要なものを買うのはいいように構わない。君が綺麗になるのは僕としても嬉しい、でも、僕にもよくわからないのだけれど、こんなに沢山の高価な服が現実的に必要なんだろうか。

妻は下を向いて「しばらくじつと黙っていた。それからこう言った。たしかにあなたの言うとおりでと思う、こんなに沢山の服は不要だと思つ、それはよくわか

ているのよ、でもどうしようもないの、と彼女は言った。目の前に綺麗な服があると、私はどうしても我慢がでなくなってしまうのよ。それを買わないわけにはいかなない。必要だとか不必要だとか、そんなことは問題ではなくてしまうのよ。彼女はそう言って泣いた。

(c-1) ロング・ヴァージョン (全作品⑧)

ある日、夕食の終わったあとで、彼は思い切つて妻に対して持ち出してみた。少し服を買うのを控えたらどうだろう、と。僕は何もお金のことをだけを問題にしているんじゃない。必要なものを買うのはいつに構わないし、君が綺麗になるのは僕としても嬉しい、でもこんなに沢山の高価な服が現実的に必要なんだろうか。

妻は下を向いてしばらく考えていた。それからこう言った。たしかにあなたの言うとおりでと思う、こんなに沢山の服は不必要だと思う、それは私にもよくわかつているのよ、でもわかつていてもどうしようもないの、と彼女は言った。目の前に綺麗な服があると、私はどうしても、それを買わないわけにはいかないの。必要だとか不必要だとか、数が多いだとか少ないだとか、そんなことは問題ではなくてになってしまうのよ。ただ単に、もう買うのを止めることができなくなっちゃうのよ。

(c-2・3) ロング・ヴァージョン (単行本・文庫本)

ある日、夕食の終わったあとで、彼は思い切つて切りだした。少し服を買うのを控えたらどうだろう、と。僕は何もお金のことをだけを問題にしているんじゃない。必要なものを買うのはいつに構わないし、君が綺麗になるのは嬉しい、でもこんなに沢山の高価な服が必要なんだろうか。

妻は下を向いてしばらく考えていた。それからこう言った。あなたの言うとおりでと思う、こんなに沢山の服は不必要だと思う、それは私にもよくわかつているのよ、でもわかつていてもどうしようもないの、と彼女は言った目の前に綺麗な服があると、私はそれを買わないわけにはいかないの。必要だとか不必要だとか、数が多いだとか少ないだとか、そんなことは問題ではなくてしまうのよ。ただ単に、もう買うのを止めることができなくなっちゃうのよ。まるで何かの中毒みたいに。

ショート・ヴァージョンの最初に「僕は」とあるのをロング・ヴァージョンでは「彼は」と変えるように、ショート・ヴァージョンの方が一人称的語りが残っており、未発表の「a」はさらに一人称的語りが強いと推測される箇所でもある。ショート・ヴ

ァージョンからロング・ヴァージョンc-1 (全作品⑧) への増補の過程で、ここで何を書こうとしていたか明確になるのではないかと思うのである。ショート・ヴァージョンを改訂増補したロング・ヴァージョンc-1 (全作品⑧) が書こうとした要素が十全に示されているのは明白だ。

注目すべきは、ロング・ヴァージョンc-2・3 (単行本・文庫本) の形はロング・ヴァージョンc-1 (全作品⑧) を踏襲しているのだが、c-2・3 (単行本・文庫本) は最後に「まるで何かの中毒みたいに」が挿入されていることだ。これは次に触れるが、ショート・ヴァージョンからロング・ヴァージョンc-1 (全作品⑧) に継承される「薬物中毒」絡みの表現をカットするために、この短縮された形でc-2・3 (単行本・文庫本) に残滓を残している表現である。

(b-1・2) ショート・ヴァージョン

しかし彼女はそれを(それはまるで薬物中毒のようなものだ)と彼女は言った) なんとか治癒すると言った。こんなことを続けていたら家が服で埋まってしまうの。それから一週間はかり彼女は洋服屋に行かず、家の中に籠もってじっとしていた。しかしそれはひどく辛い毎日だった。空気の少ない星の上を歩いているような気分だった。彼女は毎日常装室に入り、自分の服をひとつひとつ手に取って眺めて過ごした。生地を撫でまわし、匂いを嗅ぎ、袖を通して鏡の前に立ってみた。どれだけ見ても飽きなかった。そして見れば見るほど別の新しい服が欲しくなった。そんなにいっぱい服を持っていたところで仕方無いということもよくわかつていた。体はひとつしかないのだ。でも彼女には我慢ができなかった。

(c-1) ロング・ヴァージョン (全作品⑧)

しかし彼女はそれを(それはまるで薬物中毒のようなものだ)と彼女は言った) なんとか治癒すると言った。こんなことを続けていたら今に家が服でいっぱいになってしまうもの。一週間はかり彼女は洋服屋に行かず、家の中にもってじっとしていた。しかしそれは彼女にとつてはひどく辛い毎日だった。空気の少ない惑星の上を歩いているような気分だった。彼女は毎日常装室に入り、自分の服をひとつひとつ手に取って眺めて過ごした。生地を撫でまわし、匂いを嗅ぎ、袖を通して鏡の前に立ってみた。どれだけ見ても飽きなかった。そして見れば見るほど新しい服が欲しくなった。欲しいと思うともう我慢ができなかった。

(c-2・3) ロング・ヴァージョン (単行本・文庫本)

しかしなんとかそこから抜け出してみると彼女は約束した。こんなことを続けていたら今に家が服でいっぱいになってしまおうもの。一週間はかり彼女は新しい洋服を目にしないように、家の中にこもってじっとしていた。でもそうしていると、なんだか自分が空っぽになってしまったような気がした。空気の少ない惑星の上を歩いているみたいだった。毎日夜装室に入り、自分の服をひとつひとつ手に取って眺めて過した。生地を撫でまわし、匂いを嗅ぎ、袖を通して鏡の前に立ってみた。どれだけ見ても飽きなかった。そして見れば見るほど新しい服が欲しくなった。欲しいと思うともう我慢ができなかった。

ショート・ヴァージョンからロング・ヴァージョン c-1 (全作品⑧) には「彼女はそれを (それはまるで薬物中毒のようなものだと彼女は言った) なんとか治癒すると言った。」「一週間はかり彼女は洋服屋に行かず」や「ひどく辛い毎日だった」が継承されるが、この薬中みたいな彼女の服を買わない苦行は、ロング・ヴァージョン c-2・3 (単行本・文庫本) では継承されない。特に薬物中毒などの直接的な病理に関する用語は回避されてゆく²⁾。ショート・ヴァージョン末尾の「体はひとつ」云々は、ここではカットされるがロング・ヴァージョンの次の場面に使われていく。

拙論での指摘と重なるが³⁾、不適切な表現ゆえ削除する「薬物中毒」を含め、新しい洋服購入禁止が彼女にとつてどういう意味を持つかを詳述している。ショート・ヴァージョンの「星の上を歩いている気分だった」は「空気の少ない星」とはあるもメルヘンチックなリリックさが勝ちすぎるため、ロング・ヴァージョンでは「惑星の上」に改訂されている。

(b-1・2) ショート・ヴァージョン

そして夫の言うことが正論だということもわかっていた。彼女は行きつけのブティックに電話をかけて、十日前に買ったばかりでまだ袖を通していないコートとワンピースを返品できないだろうかかと店長に尋ねた。結構でございます。お待ちいただけます。それくらいのがままだを通る。

(c-1) ロング・ヴァージョン (全作品⑧)

夫の言うことはたしかに正論だと思った。こんなに沢山の服は必要なのだ。私の

体はひとつしかないのだ。彼女は行きつけのブティックに電話をかけて、十日前に買ったばかりでまだ袖を通していないコートとワンピースを返品できないだろうかかと店長に尋ねた。結構でございます。お待ちいただけます。それくらいのお引き取りいたします。と相手は言った。彼女はとびっきりの上得意だったし、それくらいのお引き取りはきいた。

(c-2・3) ロング・ヴァージョン (単行本・文庫本)

夫の言うことはたしかに正論だと思った。こんなに沢山の服は必要なのだ。体はひとつしかないのだ。彼女は行きつけのブティックに電話をかけて、十日前に買ったばかりでまだ袖を通していないコートとワンピースを返品できないだろうかかと店長に尋ねた。結構でございます。お待ちいただけます。それくらいのお引き取りいたします。と相手は言った。彼女はとびっきりの上得意だったし、それくらいのお引き取りはきいた。

ショート・ヴァージョンからカットした「体はひとつしかない」がロング・ヴァージョンに挿入。ショート・ヴァージョンの「店長に尋ねた」店長は言った」をロング・ヴァージョンでは「店長に尋ねた」相手は言った」に変更。近いところでの繰り返しを避けている。また、「わがままだを通る」を「融通はきいた」に改訂。

(b-1) ショート・ヴァージョン

彼女はそのコートとワンピースを車に積んで青山まで行った。そしてブティックでそれを返し、クレジット・カードの引き落としをストップしてもらった。

(b-2) ショート・ヴァージョン

彼女はそのコートとワンピースを車に積んで青山まで行った。そしてブティックでそれを返し、クレジット・カードの支払いをキャンセルしてもらった。

(c-1・2・3) ロング・ヴァージョン (全作品⑧・単行本・文庫本)

彼女はそのコートとワンピースを車に積んで青山まで行った。そしてブティックでそれを返し、クレジット・カードの引き落としをキャンセルしてもらった。

(b) のショート・ヴァージョンを、「文藝春秋」六八巻七号、平成二年六月 (b-1) と、それをあらためて収録した『文藝春秋短編小説館』平成三年九月 (b-2) の二種に分類するのは、この右の場面で書き換えがあるためなのは前にも記したとお

りである。この一か所のみb・1とb・2には異同がある。この箇所本文異同があるために同一のテキストと見做せないわけである。

そして厄介なのが、ショート・ヴァージョン二種を融合した形がロング・ヴァージョン決定本文となるところである。b・1の「引きおとし」とb・2「キャンセル」を組み合わせてロング・ヴァージョンの本文が作られている。

(b-1・2) ショート・ヴァージョン

なるべくまわりを見ないようにして車に乗り、(略) そう、それらは必要のないものだったのだ、と彼女は思った。私は既に沢山のコートとワンピースを持っているのだもの、と。(略) 彼女はすっかり記憶していた。彼女はそれを全部はつきりと思いつくことができた。(略) 目を開けたとき、信号が青に変わるのが見えた。彼女はほとんど無意識にアクセルを踏みこんだ。

(c-1) ロング・ヴァージョン(全作品⑥)

なるべくまわりを見ないように急いで車に乗り、(略) そう、それらは必要のないものだったのだ、と彼女は自分に言い聞かせた。私は死ぬまで不自由しないくらい数のコートとワンピースを持っているのだもの、と。(略) 彼女ははつきりと記憶していた。今日の前にあるもののように、細部まで鮮明に思い浮かべることができた。(略) 目を開けたとき、信号が青に変わるのが見えた。彼女はほとんど無意識にアクセルを踏みこんだ。

(c-2・3) ロング・ヴァージョン(単行本・文庫本)

なるべくまわりを見ないように急いで車に乗り、(略) そう、それらは必要のないものだったのだ、と彼女は自分に言い聞かせた。私は死ぬまで不自由しないくらい数のコートとワンピースを持っているのだもの、と。(略) 彼女ははつきりと記憶していた。今日の前にあるもののように、細部まで鮮明に思い浮かべることができた。(略) 目を開けたとき、信号が青に変わるのが見えた。彼女ははじかれたように思い切りアクセルを踏みこんだ。

いかにc-2・3(単行本・文庫本)へ収斂されていくかが見て取れる改変である。

(b-2) ショート・ヴァージョン(b-1・2)

靴だけでも百十二足もあった。妻の身につけていたものをいつまでも抱えているのはいやなので、装身具の類は業者を呼んで言い値で持っていかせた。身の回りのものはまとめて庭の焼却炉で焼いた。

(c-1) ロング・ヴァージョン(全作品⑥)

靴だけでも百十二足もあった。彼はそれをいつどうすればいいのか、見当もつかなかった。妻の身につけていたものをいつまでも抱えているのはいやなので、装身具の類は業者を呼んで言い値で持っていかせた。身の回りのものはまとめて庭の焼却炉で焼いた。

(c-2・3) ロング・ヴァージョン(単行本・文庫本)

靴だけでも百足近くあった。それをいつどうすればいいのか、見当もつかなかった。妻の身につけていたものをいつまでも抱えているのはいやなので、装身具の類は業者を呼んで言い値で持っていかせた。ストッキングや下着の類はまとめて庭の焼却炉で焼いた。

これなども三段階の増補・改訂が顕現化した例である。百十二足という半端な数の方が魅力的だが、二百足近くにされ、「身の回りのもの」は(c-3)で、より具体化されている。以上が結婚した後の、彼女妻の描かれ方の本文異同の校異である。妻の服を纏う職に応募してくる女性については続稿としたい。

〈注〉

- (1) 拙論『トニー滝谷』の本文改訂(一)「シャネル削除による人物造形」『解釋學』六七輯(平二五・三)。
- (2) ロング・ヴァージョンでは「精神の痲(衆物中毒のようなもの)」といった病理に関する直接的な言葉が削除されていることは『村上春樹作品研究事典』二二六頁(近藤裕子氏執筆)に指摘がある。なお、右の事典はc-2・3『レキシントンの幽霊』をもってロング・ヴァージョンを代表させているので仕方ないが、正確には、ロング・ヴァージョンのc-2・3(単行本・文庫本)が病理に関する言葉を削除しているのである。

(3) 拙論『全作品⑥所収『トニー滝谷』本文の性格―定本との差異とその独自性が意味するものと―「解釈」六一巻七九号(平二七・八)。